

ヨコハマ e-アンケート 自転車の使い方に関するアンケート 調査結果の速報

■ヨコハマe-アンケートについて

市内在住の15歳以上の方を対象にメンバー募集し、市政に関するアンケートにインターネットでご協力いただく調査。

■自転車の使い方に関するアンケートについて

実施期間：平成26年12月5日(金)～12月19日(金)

回答者数：789人（全メンバー数2,327人のうち、33.9%）

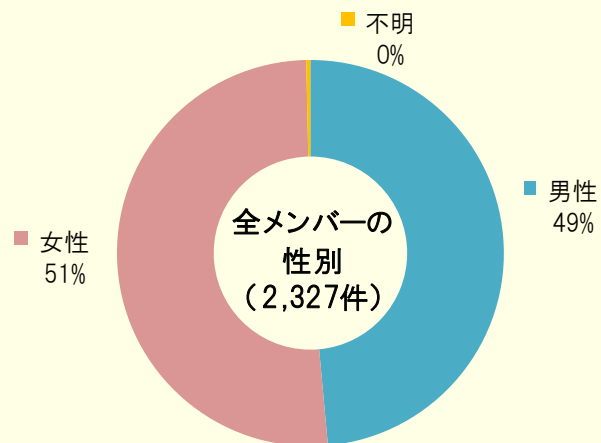
回答者の属性について

性別

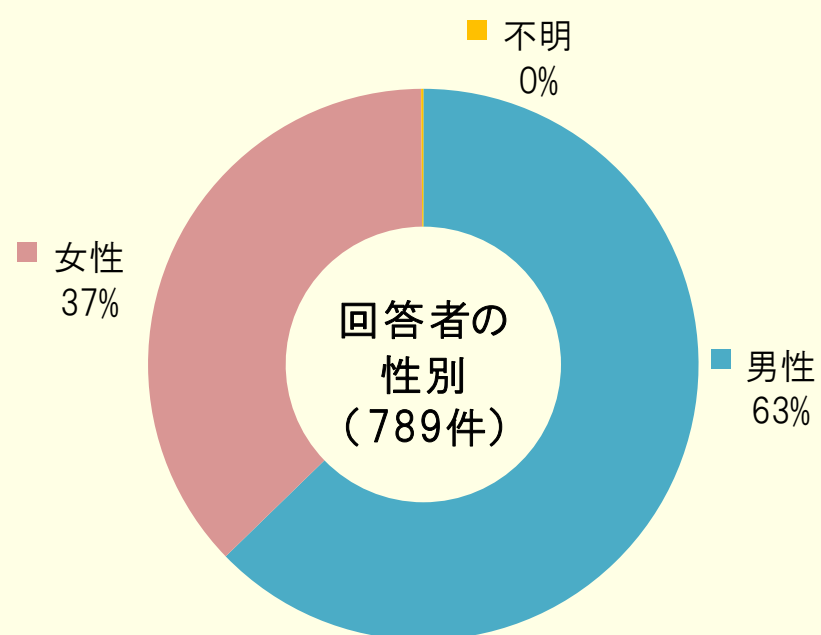
回答者の特徴

- 全メンバーの性別は、男性／女性でほぼ同数。
- 「自転車の使い方」に回答した人では男性が6割を超える。

全メンバーの年齢構成



回答者の年齢構成



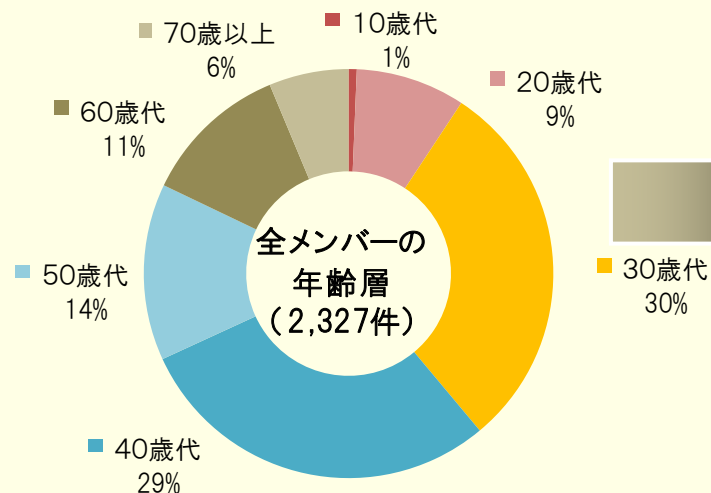
回答者の属性について

年齢層

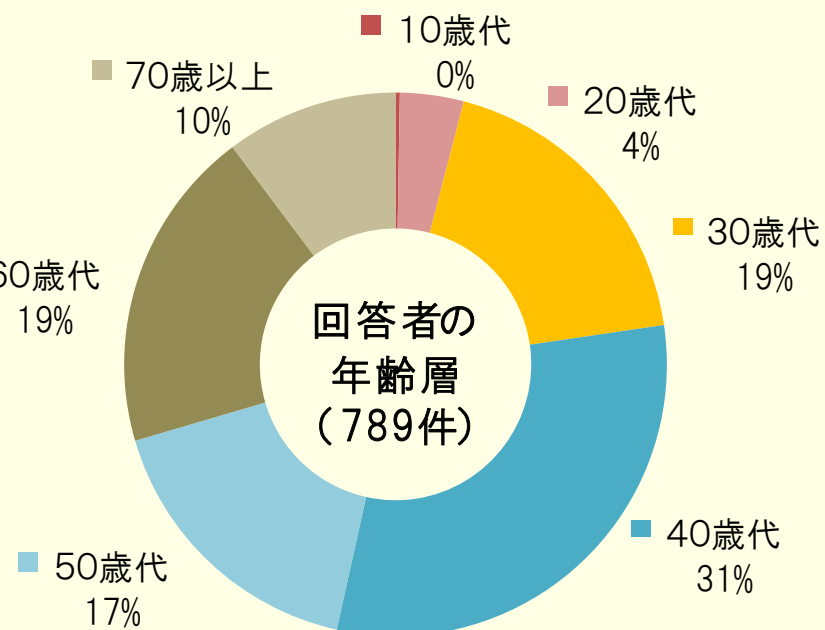
回答者の特徴

- 全メンバーの年齢構成に比べると、10～30歳代の割合が低く、60歳代以上の高齢者の割合が高くなる。

全メンバーの年齢構成



回答者の年齢構成



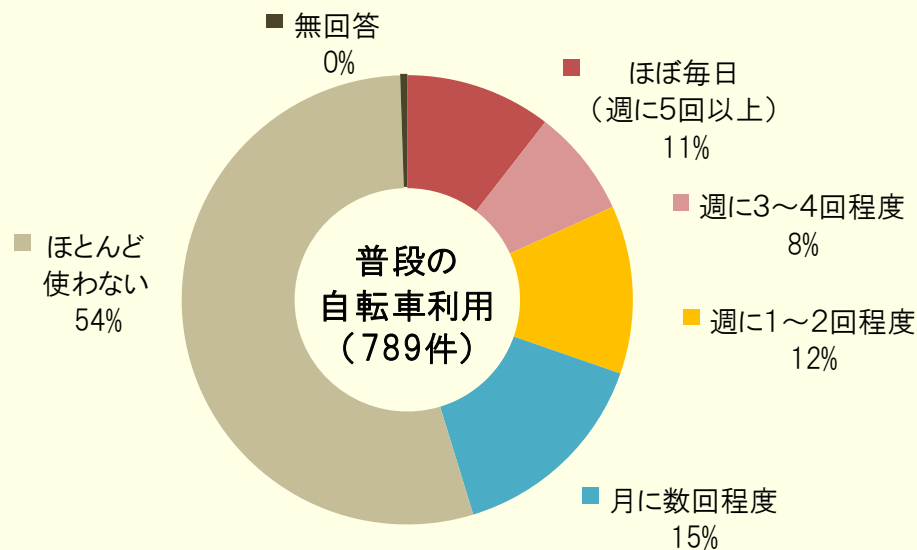
回答者の属性について

普段の自転車の使い方

利用の頻度と利用目的

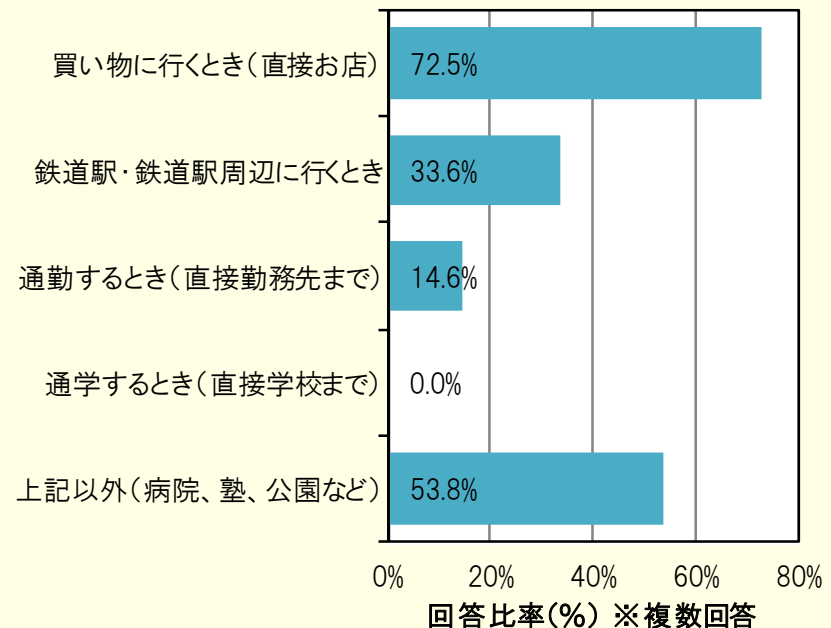
- 回答者の半数以上が、普段自転車をほとんど使わない人
- 利用の目的は、買い物が7割を超え、駅や周辺に行く利用より多い。

普段の自転車利用の頻度



普段の自転車利用の目的

普段の自転車の使い方(357件)



自転車の使い方について

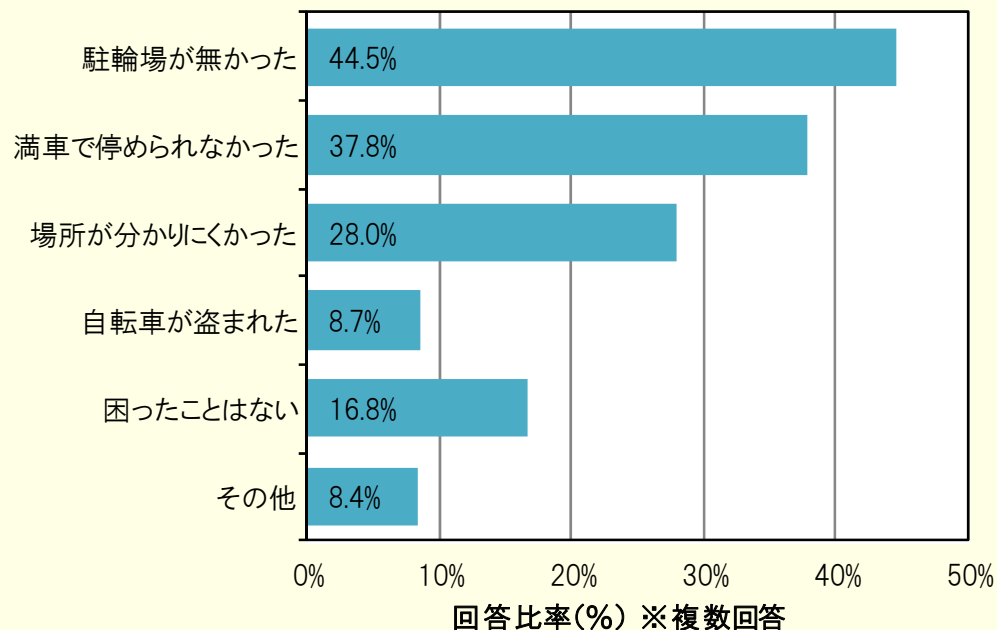
「とめる」に関する市民の意識

自転車で出かけた時に困ったこと

- 「お出かけ先に駐輪場が無かったこと」に、全回答者の45%が困ったと回答。
- 次いで、「満車で止められなかった」38%、「場所が分かりにくかった」28%。

お出かけ先の駐輪で困ったこと

お出かけ先での駐輪で困ったこと(357件)



自転車の使い方について

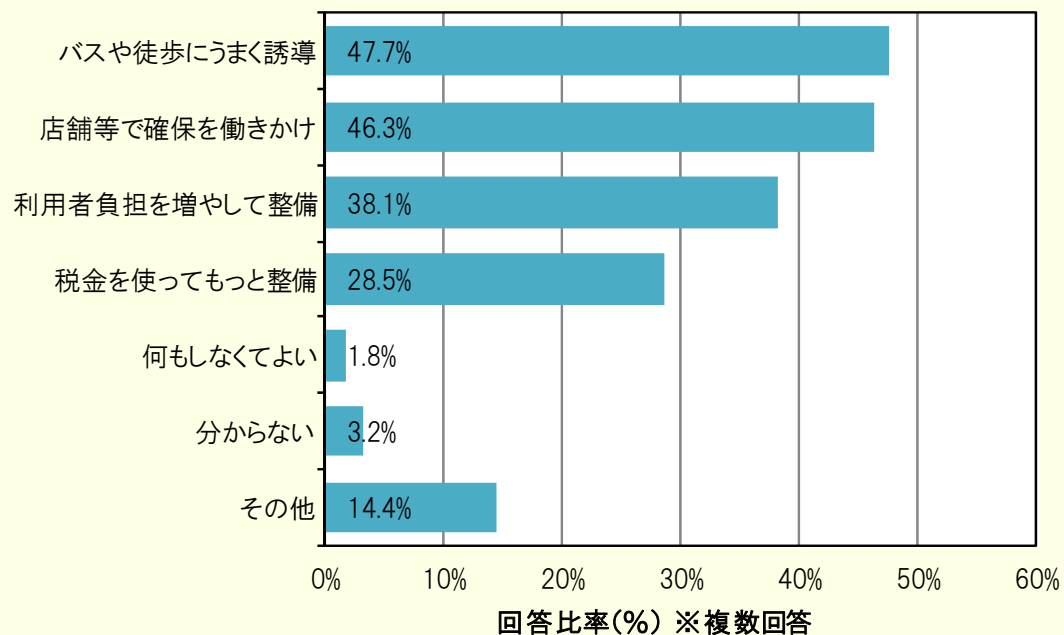
「とめる」に関する市民の意識

駐輪場が足りない状況の解消のしかた

- 駐輪場が足りない場合、「バスや徒歩に誘導」が最も多く48%。
- 次いで、原因者となる「店舗等での整備」や「利用者負担による整備」が多い。

駐輪場が足りない状況の解消の仕方

駐輪場が足りない状況の解消のしかた(789件)



自転車の使い方について

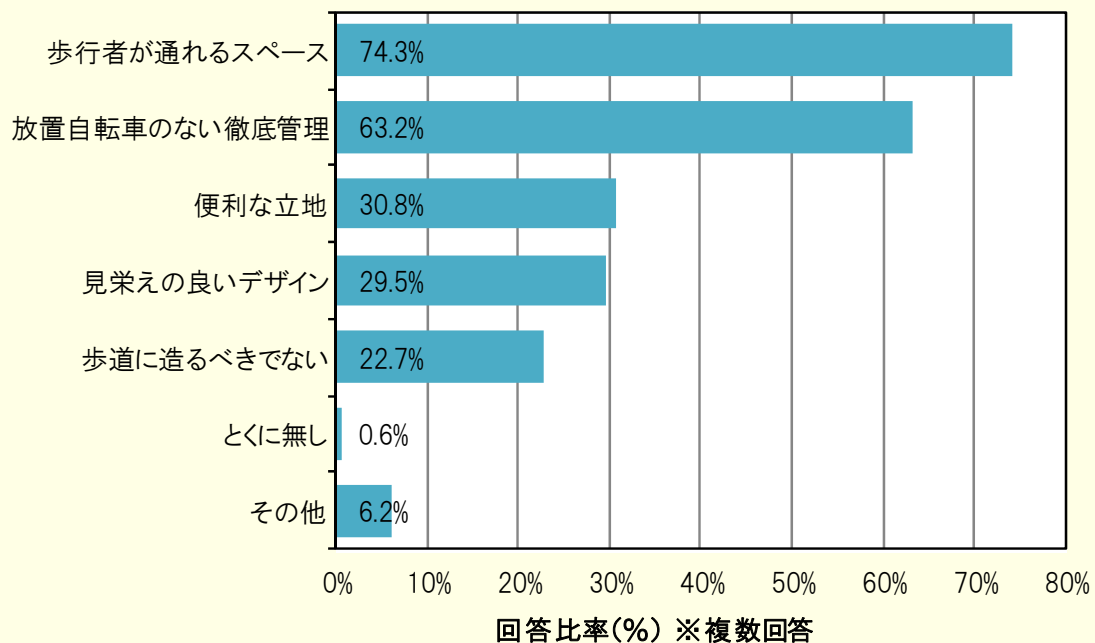
「とめる」に関する市民の意識

歩道に駐輪場をつくる場合

- 「歩行者が通れるスペース」を確保することと、「放置自転車のない徹底管理」に意見が集中。

歩道に駐輪場をつくる場合の配慮点

歩道に駐輪場をつくる場合の配慮点(789件)



自転車の使い方について

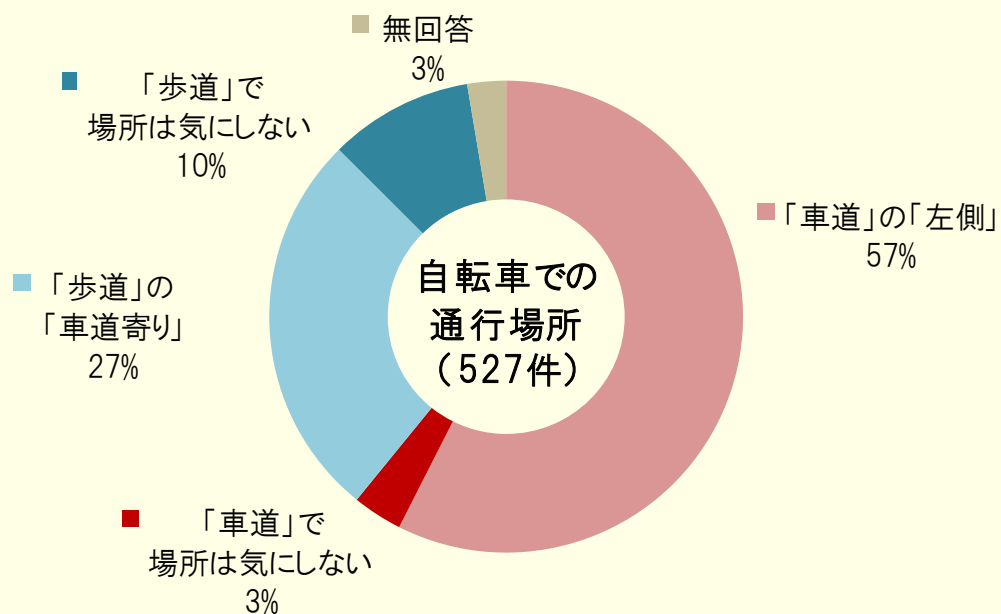
「はしる」に関する市民の意識

自転車を使うときの「通行場所」

- 「車道の左側」を通行する人は57%、「歩道の車道寄り」を通行する人は27%。
- 合わせて84%が通行場所を遵守していると回答。

自転車での通行場所

※歩道は「自転車通行可」を想定した設問



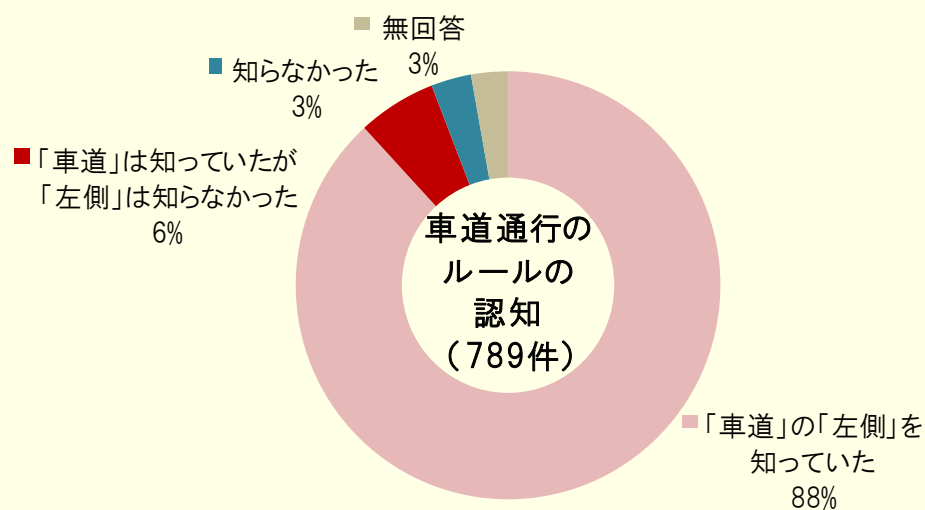
自転車の使い方について

「はしる」に関する市民の意識

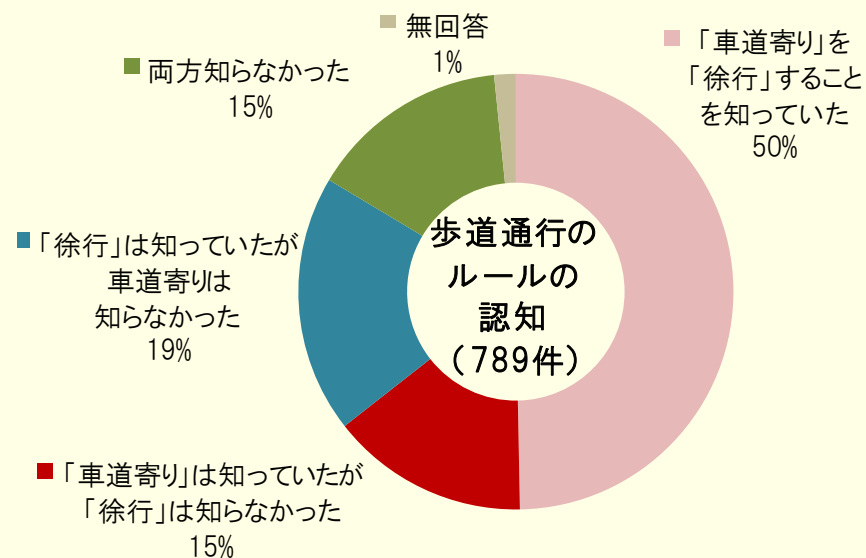
自転車の「車道」と「歩道」の通行ルールの認知状況

- 「車道の左側」の通行ルールは、88%が知っていたと回答。
- 「歩道の車道よりを徐行」の通行ルールは、50%が知っていたが、どちらかもしくは両方知らなかった人も49%。

車道通行のルール



歩道通行のルール



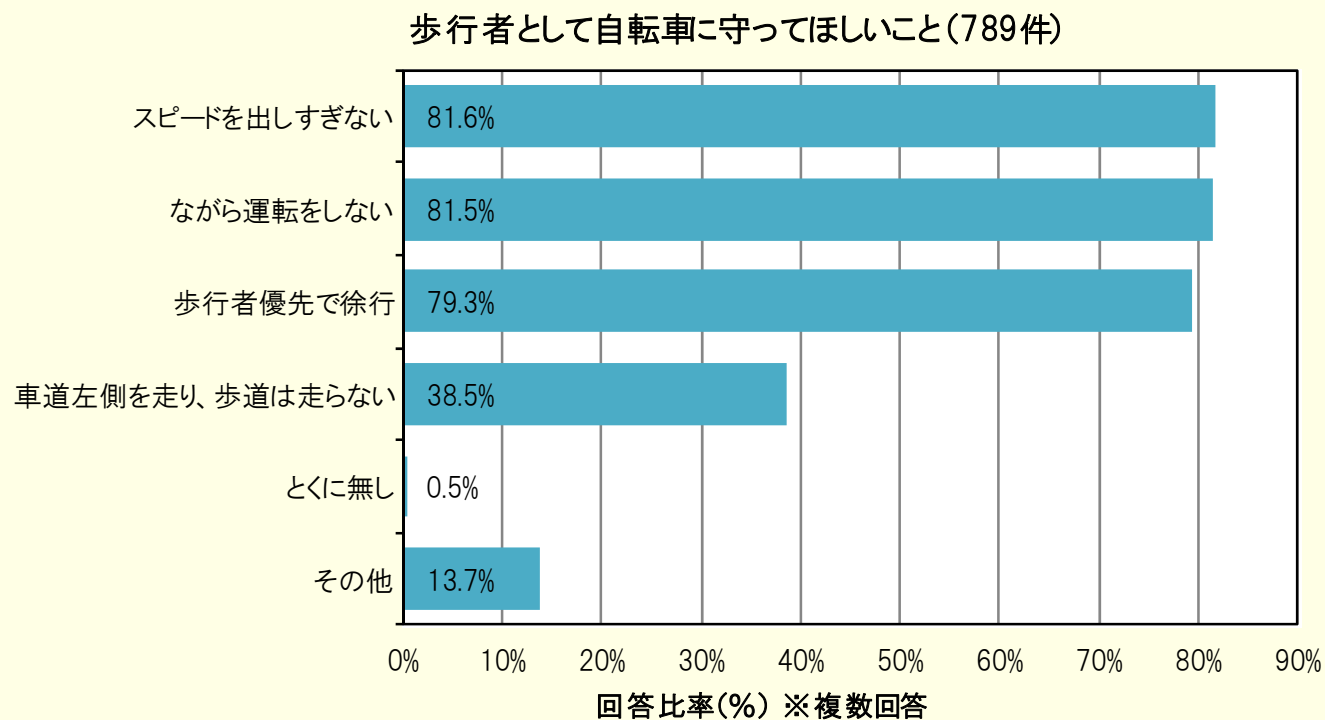
※歩道は「自転車通行可」を想定した設問

自転車の使い方について

「はしる」に関する市民の意識

【歩行者】として、自転車利用者に守ってほしいこと

- 歩行者の立場では、「スピードを出しすぎない」「ながら運転をしない」で、「歩行者優先で徐行する」ことを求めている。



自転車の使い方について

「はしる」に関する市民の意識

【自動車】として、自転車利用者に守ってほしいこと

- 自動車の立場では、「急な横断、方向転換」「ながら運転をしない」ことを懸念。
- 「車道の左側を走る」通行ルールの特則は、54%と半数程度。

自動車として自転車に守ってほしいこと(789件)

